

■ 学年を通しての学習の目標・ねらい

「L I F EⅢ」は、「地域」や「世界」におけるよき「生活者」としての生徒の成長の保障をめざすものである。「生活者」とは、もちろん、「世渡り上手」というような意味ではない。自明視されてきた生き方とは別のよりよい生き方を模索し、いま生活しているその場から発想して問題解決をはかろうとする主体をさす。こうした生徒の「生活者」への成長をめざして、「地域」と「世界」について学び考えるのが「L I F EⅢ」である。具体的には、「地域」を出発点に「世界」の問題について考えたり、逆に「世界」の問題から「地域」を見つめ直したりすることによって、生徒自身がいま生活している「地域」や「世界」についての理解を深め、その形成や発展を担うべき主体としての自覚と、よりよく生きようとする態度を育てることをめざす。このようなねらいを達成するため、「L I F EⅢ」は「テーマ学習」（単元1・2）と「テーマ研究」（単元3）で構成する。

「テーマ学習」では、教師の支援を受けながら、教師が選定した「地域」についてさまざまな角度から調査したり、自ら発見したその「地域」に関するテーマを追究したりすることによって、ローカルな視点から「世界」の問題を考える。当面、単元1では「長崎」、単元2では「沖縄」を取り上げる。

また、「テーマ研究」では、教師が設定した「世界」の問題（概念）群の中から、自己の興味や関心に基づいて問題（概念）を選択して具体的なテーマを設定し、教師の支援の下にそのテーマを自己の生活する「地域」に追究することによって、グローバルな視点から自己の生活している「地域」を見つめ直す。

以上のことを、方法・内容・態度の観点から目標としてまとめると、次のようになる。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ① 「地域」や「世界」の問題に関する情報を収集・整理・分析する能力を育て、自らそれらの問題の解決や探究ができるようにする。 ② 「地域」や「世界」の問題に関するものの見方や考え方を習得し、それを使ってそれらの問題について説明出来るようにする。 ③ 「地域」や「世界」の形成や発展を担うべき主体としての自覚を深め、それらの問題に関心を持ち、それらの問題の解決や探究の活動に主体的・創造的に取り組む態度を育てる。 |
|--|

さらに、上記の3つの目標を「育まれる能力」としてとらえると、以下のようになる。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ① 「地域」や「世界」の問題に関する情報を収集・整理し、分析・吟味する能力 ② 「地域」や「世界」の問題に関する情報をまとめ・説明し、表現・伝達する能力 ③ 「地域」や「世界」の問題に関するテーマを、真理性や正当性に基づいて意欲的に探究する能力 |
|--|

■学年を通しての評価の観点

各単元においては、『情報整理票』を活用しながら問題解決や探究の活動を行い、その成果として『研究レポート』を作成させ、発表させる。そうした一連の活動に対して、毎時間の観察と発表の様子を中心に問題解決や探究の活動の状況を、『情報整理票』の各項目の内容により活動の質を、『研究レポート』の内容により活動の到達の程度を、それぞれ《関心・態度》、《思考・技能》、《知識・表現》の観点から評価する。具体的には、次の通りである。

- 1 《関心・態度》意欲をもって創造的な探究に取り組み、関心を深めることができたか。
 - ① 十分に情報を収集しようとしていたか。
 - ② 情報を分析・吟味しようとしていたか。
 - ③ 興味をそそり、理解しやすい工夫をしようとしていたか。
- 2 《思考・技能》情報を収集・整理し、吟味・分析できたか。
 - ① 的確な情報を、効率よく収集しているか。
 - ② 収集した情報に間違いはないか。
 - ③ 情報を分析的に吟味しているか。
- 3 《知識・表現》情報をまとめ説明し、表現・伝達することができたか。
 - ① 紹介しようとするのが、明確になっているか。
 - ② 興味をそそり、理解しやすいような工夫はされているか。
 - ③ 十分に分析・吟味された内容か。



長崎自主研修（オランダ坂）